

戦 評

大会名 第15回 東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』
(第4回 男子マスタース部門・エキシビジョン大会)

期日: 平成30年10月14日
会場: 秋田市茨島体育館

男子決勝戦

古川クラブ (宮城県) 2 { 22 — 20 } 0 秋田・鷹巣倶楽部 (秋田県)
初優勝 { 21 — 15 }
試合時間 0 時間 50 分

主 審 星 徹 (福島県)

副 審 松田 弘司 (秋田県)

戦 評

2連覇を目指す地元代表の秋田・鷹巣倶楽部と古川クラブの対戦。

第1セット鷹巣は、序盤から粘り強いレシーブと1番定兼のサービスエースなどで

8連続得点で大きくリードする。しかし、ここから古川の4番市川、6番氏家が

合わせて6本のサービスエースなどで9-9に追いつく。その後、一進一退の戦い

となるが、20-20から、古川・4番市川のこのセット5本目のサービスエース、

6番氏家のスパイクによる連続得点でこのセットを奪取した。

第2セットは、古川が一気に流れをつかむと13-2と大きくリードする。その後

鷹巣も粘りを見せるも古川クラブが第4代の覇者となった。

戦評者 嶋 貴 勝 (秋田県)

東北クラブバレーボール連盟

戦 評

大会名 第15回 東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

期日：平成30年10月14日
会場：CNAアリーナ★あきた

6人制女子決勝戦

NEO AKITA (秋田県)	2	{ 25 — 17 22 — 25 25 — 18 }	1	Z E R O (岩手県)
2年ぶり2回目の優勝				
試合時間 1 時間 14 分				

主 審 加藤 綾維 (宮城県)

副 審 渡邊 匠哉 (青森県)

戦 評

6人制女子決勝は、前身のこまちレオニー秋田以来2度目の優勝を狙う地元のNEO AKITAが昨年度準優勝のZEROを迎え撃つことになった。

第1セットNEO AKITAは、スパイクミスが続き1-6とリードを許すが、その後11番高瀬のサイドからのスパイクやサービスエースをきっかけに流れを掴むと中盤以降は7番佐藤のライト攻撃で突き放し25-17で先取した。

第2セット、リズムを取り戻したいZEROは5番小玉と10番キャプテン吉田のコースを狙ったサイド攻撃でリズムをつくりリードする。一方、NEO AKITAは4番渡邊、11番高瀬の得点で追撃するも、最後はZEROが25-22で逃げ切った。

最終セットZEROは、1番小山田を軸に先行するが、地元の声援を受けたNEO AKITAが1番升田のミドル攻撃、11番高瀬のブロックの裏をかくフェイントが次々と決まり、NEOAKITAがフルセットの激戦を制した。

戦評者 菅原 徳浩 (秋田県)

東北クラブバレーボール連盟

戦 評

大会名 第15回 東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

期日: 平成30年10月14日
会場: CNAアリーナ★あきた

6人制女子決勝戦

V C 秋田 (秋田県)	2	{	25 — 11 — 25 — 16	}	0	福 島 (福島県)
6年ぶり3回目の優勝		試合時間 0 時間 42 分				

主 審 細堀 洋征 (宮城県)

副 審 山根 寿 (岩手県)

戦 評

6人制男子決勝は、2年ぶりの優勝を目指す福島と地元のVC秋田の対戦となった。

第1セットは、VC秋田が大きく流れをつかむ。3番藤本、8番細川、12番川村が

スパイク、ブロックに活躍し、10連続得点をあげるなどして先取した。

第2セットもVC秋田の勢いは続く。キャプテン1番眞田のブロック、2番太田の

スパイク、14番石井のスパイクなど力強いプレーが飛び出し、一気にリードし、

6年ぶり3回目の優勝を果たした。

戦評者 桑原 一誠 (秋田県)

東北クラブバレーボール連盟

戦 評

大会名 第15回 東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

期日：平成30年10月14日
会場：秋田市茨島体育館

9人制女子決勝戦

teamみやぎ (宮城県)	2	$\left\{ \begin{array}{l} 21 - 9 \\ 21 - 13 \end{array} \right\}$	0	山形クラブ (山形県)
初優勝		試合時間	0 時間 38 分	

主 審 藤原 泰史 (秋田県)

副 審 船木 洋行 (秋田県)

戦 評

2年ぶりの顔合わせとなった9人制女子決勝は、前年準優勝で一步を果たしたい

teamみやぎと、最多優勝の7回目の優勝を目指す山形クラブの対戦となった。

第1セットは序盤からteamみやぎが主導権を握り、13番大内のスパイクや4番油井

2番相馬のサービスエースなどで得点を重ね、21-9で第1セットを先取した。

一方の山形クラブはキャプテン1番浦山の強烈なスパイクや、6番坂井の足の長い

スパイクなどで応戦するが、リベンジに燃えるteamみやぎは、2番セッター相馬の

巧みなトス回しからキャプテン1番紺野の緩急を使い分けたスパイクが次々と決まり、

teamみやぎがこのセットも奪い、悲願の初優勝を飾った。

戦評者 佐藤 恵美 (宮城県)

東北クラブバレーボール連盟

戦 評

大会名 第15回 東北クラブバレーボール選手権大会『みちのくカップ』

期日：平成30年10月14日
会場：CNAアリーナ★あきた

9人制男子決勝戦

黒 修 会 (岩手県)	2	{ 21 — 18 — 21 — 13 }	0	巖きたかみ (岩手県)
4年ぶり2回目の優勝				
試合時間 0 時間 48 分				

主 審 添田 尚志 (福島県)

副 審 浅妻 誠 (秋田県)

戦 評

岩手県同士の対戦となった9人制男子決勝は、開始直後から2番高野、13番高橋の連続サービスエースで波に乗った黒修会が大きくリードする。巖きたかみは、粘り強くボールをつなぎ、15番佐々木の緩急をつけた攻撃や11番伊藤のブロック、3番石川のサーブで徐々に追い上げ終盤2点差まで迫るも、黒修会3番藤原の速攻が決まり、第1セットを取った。

第2セットは、序盤は両チームとも主導権を握ることができず苦しい展開が続く。

しかし、岩手第1代表の黒修会が4番菊池のスパイク、7番泉のサーブで徐々にリードを広げる。対する巖きたかみも16番曾我の速攻や4番下田のスパイクで粘りを見せるが、黒修会は17番高橋が連続でスパイクを決めてリードを広げる。

その後もサーブを攻め切った黒修会が最後も6番板垣のサービスエースで勝利をつかんだ。

戦評者 武田 聡子 (秋田県)

東北クラブバレーボール連盟